

# 授業力をつけよう

## —小学校教諭免許取得プログラムの活動—

甲南大学教職教育センター 教職指導員 田村 泰宏

### 1 小学校教諭免許取得プログラム

本学では神戸親和女子大学と協定を結び、小学校教諭1種免許が取得できるプログラム(小プロ)を置いている。通常の中学校教諭免許取得課程で履修する単位に加えて、45単位ほどをさらに通信教育で修得する必要がある。今年度は、2～4回生の7名が参加している。

テキストを自習してレポートを書くことが、このプログラムの中心的な活動になる。課題には、「テキスト精読の上、課題について適切的確に」、「自分の考えを取り入れて」といった評価基準や、「丁寧な文字(小学校教員に必須のスキルである)で…」といった付記が示されている。自らの学びを確実に文章表現して、良いレポートに仕上げるよう、小プロ生に支援している。

教員養成が目的であるため当然のことながら、課題の中には「授業展開と指導のポイントをまとめなさい。」といった指示がある。これが小プロ生にとっては、想像以上に高いハードルである。より良い授業とは何か、そもそも小学校でどのような授業が行われているのか、あらためて問われてみれば、意外にイメージしにくいものである。

### 2 今年度の「小プロ」：めあてと内容

#### (1) 小プロ全体会＝「授業力をつけよう」

授業に焦点をあてつつレポート作成を支援すれば、小学校教員としての資質を磨くことにもなる。

小プロでは、月1回土曜日に小プロ全体会を行い、最近の小学校教育についての情報交流を行ったり、模擬授業に取り組んだりできるようにしている。今年度は、この小プロ全体会のめあてを「授業力をつけよう」と設定した。

#### (2)「授業づくり演習」を行う

##### ① 授業づくりの観点をテーマに

一人の担任が様々な教科・領域の授業を、幅広い発達段階の子どもに合わせて行うのが小学校教育の特色である。その授業の内実は、教壇に立ってみて、「子どもってこんな考え方をするのか。」とか「この発問では通じないなあ。」とか戸惑いながらでないと見えてこないところがある。ただ、授業を組み立てる原則について学ぶことは、わざわざ現場に立たなくてもできる。授業づくりの観点を、五つの角度から設定し、各1時間をあてて演習形式で学べるようにした。各月のテーマは以下のとおりである。

(5月)	テーマ1 [学習過程]
授業は?で始まり!で終わるもの。単元も一時間の授業も、問題解決的に構成すること。	
(7月)	テーマ2 [板書]
授業の成否は板書に現れる。一目瞭然に一時間の学習が分かる板書を構成すること。	
(9月)	テーマ3 [教材研究と発問]
教材を生きて働く学習材とするためには、発問をポイントに教材研究を進めること。	
(10月)	テーマ4 [アクティブラーニング]
今求められている「アクティブラーニング」のイメージをかためておくこと。	
(11月)	テーマ5 [評価]
授業の中にも様々な評価の機会がある。指導の効果を高める「評価」を心がけること。	

各回、テーマに対する演習のねらいを示し、国語や算数などの教材をもとに、どのような授業が展開できるのかを考えていくようにしている。

##### ② 演習の進め方

《テーマ4 [アクティブラーニング] を例に》

##### ○ 演習のねらい

次期学習指導要領には、学習指導方法としてのアクティブラーニングが示されます。読み書き計算の学習が、小学校の教育課程です。そこにどの

ような工夫を加えれば、この求めに応えることができるのでしょうか。歴史的側面や社会状況、また、学校の現状から、求められるアクティブラーニングのイメージを形づくってみましょう。

#### ○ 演習の内容

- ・ 「探求的・協働的学習」をさかのぼる  
学習指導要領の変遷や、昭和10年代の国語教育観を調べながら、探求的・協働的学習が決して最近のものだけでないことに気づく。
- ・ 「アクティブラーニング」を考える  
中央教育審議会の諮問文から、今求められる「アクティブラーニング」が満たすべき条件を考える。
- ・ 社会科のアクティブラーニングをつくる
  - a まとめのテストから単元目標を考える
  - b 適切な資料を単元導入に位置づける
  - c 導入資料「ノルマントン号事件とエルトゥール号遭難」(注)を読む
  - d 資料からさらに調べたくなったことは？
  - e 調べたいことをもとに単元構想を練る

#### ○ 演習のまとめ

子どもから学習課題を引き出す資料が単元構想のきっかけになることが分かる。さらに基礎的な知識・技能にも配慮しながら、また、学びとったことを表現する学習活動をも組み込んで単元構成を工夫する必要があることが確認できた。

#### ③ 良い授業のイメージを

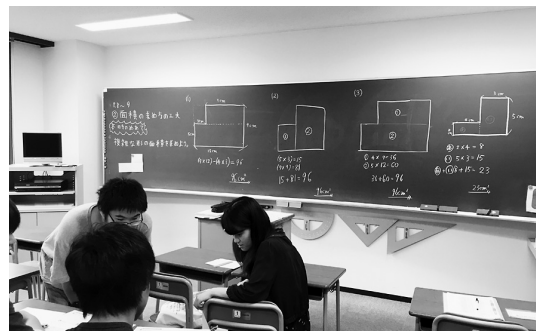
めざす授業を分析的にとらえるために、五つのテーマを設定したが、問題解決的な学習の様子が板書に現れ、その板書が展開されるような教材研究と発問計画とがあり、単元レベルでとらえればそれがアクティブラーニングになるというように、互いに深く関連し合っている。各回の学びを統合しつつ、良い授業のイメージを小プロ生一人一人が描けるようにしていきたい。

#### (3)「模擬授業」で試す

小プロ全体会では、「模擬授業」にも取り組んでいる。今年度は以下の教材をとりあげ、それぞれ45分の授業を実践した。

できるだけ授業づくり演習と結び付けて授業を振り返るようにしてきた結果、導入で学習課題を把握できるようにすることや、子どもの表現活動や考えの交流を授業の山場にすることといった授業づくりの留意点が共有されるようになってきた。

月	単元・題材
4	オリエンテーション 「あなたにとって良い授業とは」
5	国語4年「短歌・俳句に親しもう」
6	家庭5年「あなたは家庭や地域の宝物」
7	算数4年「面積」
9	道徳6年「支え合いや助け合いに感謝して」
10	社会5年「これからの食糧生産」
11	国語6年「食感のオノマトペ」



//グループで話し合い：算数4年『面積』の模擬授業//

小学校低学年の授業には特別な配慮が必要である。今年度はまだ低学年の授業が見られないので、12月以降、取り上げるようにし、視野広く授業をとらえることができるようにしたい。

#### 3 学び続ける教員に

「小学校の先生になりたいです。」といきいきと語ることは頼もしい。それぞれに子どもとの関わりに将来への希望を見出しているのであろう。

子どもとの関わりには、苦労もあるが奥深いやりがいもある。授業を語り合う中で、これまでにない気づきをもつことができれば、希望もさらに大きく豊かなものになる。

「学び続ける教師の基礎力育成」が教員養成の要点である。学び続けるエネルギーは、この希望から生まれる。甲南大学の小学校教諭免許取得プログラムで学ぶ内に、さらに大きく希望をふくらませてほしいものである。

(注)『わかやま発見』(和歌山県教育委員会2009年刊)より